

## 申10号 新幹線電車の交番検査周期見直しに関する申し入れ

1項から3項まで議論

### 第1項 新幹線電車の交番検査周期見直しを行う目的と課題を明らかにすること

**組合** ・効率的な車両メンテナンス体制とはどういう意味か。  
・実際にはどれくらいのペースで取り込むことになると見込んでいるのか。

**会社** ・定期検査を確実にやっていくことに変わりは無い。1日2本しているあれば、単純に半分の体制にといい感じだ。  
・課題は安全な車両提供のために確実な検査を行うとともに、教育や臨終修繕等に確実に対応し、サービスレベルの向上を計っていくことだ。

・U編成 35-36日、P編成 55-56日、F編成 40-41日、Z編成 40日、R編成 45-56日、J編成 45-50日程度と見込んでいる。

### 第2項 周期延伸の根拠となっている各系式車両のテストカーにおけるデータを示すこと

**組合** ・テストカーを取り込んだ結果を明らかにしてほしい。結果として「大丈夫」と言われても現場は安心できない。  
・6万kmに達するまで何一つ手をつけていないということでのいいのか。  
・対象車種はどのようなデータを取っているのか。

**会社** ・3万km、6万kmで取り込んで9万kmを超えない所まで走り込んだ。  
・消耗品は限度に達した物(パソタグラの刃板等)は交換している。基本は在姿での機能確認と検査をしている。なお、対象車で加修実績は無い。  
・U編成 30両、P編成 16両、F編成 48両、

Z編成 21編成、R編成 14両、J編成 30両 合計 159両、各車種の10%でテストした。  
・数値化して数学的・系統的に分析したわけではない。あくまで、交番検査(99項目)の基準に照らし合わせてどうであったのかという事を確認している。  
・妥当性の判断は、告示に定められた方法に則っている。委員会を設置し外部有識者の意見を頂き、厳しい基準でチェックした。データは恣意的な変更は加えずに出して判断してもらった。

### 第3項 周期延伸の実施はE5以降を対象とし、E2系・E3系はE5系以降を検証した上で実施すること

**組合** ・E2系は1990年代に投入されている。その車両とE5系以降を同じ考え方としていいのか。  
・消耗部品やフィルタ清掃などはどうするのか。  
・会社の考える周期延伸は、告示で定められた検査を6万kmまで伸ばすことだけだ。交番検査では検査以外に整備もしている。そういう所が交番検査に含まれているということ、有識者は理解して結論を出しているのか。

**会社** ・E2系からはそれまでの車両とは違う基準と考え方で製作している。摺動部とかも無くしてきている。  
・現在特定交検で実施している項目や線区特情に踏まえて支社が定める部分は検討していく。  
・3交検までは毎交検に、4交検は隔交検というイメージである。結露や水、ホコリなど、見つければ全検等で対処していく。  
・寿命に関わることは台検や全検で行う。交検はあくまで在姿での機能・状態確認だ。

**交番検査に対する会社の認識は現場の不安を募らせるだけだ!**

**新幹線の安全を守るために  
職場からの議論を積み上げよう!**